

令和8年度青森県立保健大学
学校推薦型選抜（社会福祉学科）

小論文試験問題

10:40～12:10（90分）

〈注意事項〉

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が2ページあります。
- 3 落丁・乱丁がある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には、下記の記入例により **あなたの名字の頭2文字及び受験番号を忘れず**に記入してください。
- 5 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

〈解答用紙への記入例〉

（例1）

頭2文字	ス	ズ	（鈴木：スズキ）
------	---	---	----------

（例2）

頭2文字	ザ	イ	（財前：ザイゼン）
------	---	---	-----------

（例3）

頭2文字	キ	ツ	（吉川：キツカワ）
------	---	---	-----------

受験番号	3	1	3	0	0	1
------	---	---	---	---	---	---

令和8年度青森県立保健大学学校推薦型選抜 小論文試験問題

社会福祉学科

問題 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（*には注釈があります。）

貧困には絶対的貧困と相対的貧困の二つの概念がある。国や一定の地域の生活レベルとは無関係に人間が生きるのに必要な最低限の衣食住を満たす生活水準以下の層を「絶対的貧困」と呼ぶ。一方で、ある国・地域のなかで平均的な生活レベルを設定してそれと比較してそれよりも著しく低い層を「相対的貧困」と定義している。どちらも貧困を考える上で大切な指標となる。

（中略）

この①貧困の原因は、個人か社会かという問題について、筆者の身近なところから説明していきたい。筆者の故郷は福岡県の筑豊である。そこはかつての炭鉱の街として有名なところであるが、生活保護受給率が日本でもっとも高い地域でもある。実はその理由は明らかである。筑豊の人たちが特別に怠惰で、道徳的に退廃しているはずでないことは言うまでもない。ではどういう原因が考えられるのか。それは、明治時代の国家の産業政策に端を発する。この地域は明治政府の後押しで地域をあげて石炭産業に注力した歴史をもつ。その関係で炭鉱労働者がこの地域に一挙に流入し、かつては炭鉱の街として賑わっていた。しかし時代とともに炭鉱産業が消滅したことにより、多くの人が同時に職を失った。この失業問題は今日まで続いている。財政破綻をした自治体として話題になった北海道の夕張市も同様の構造である。

つまり、近代以前の農業中心の産業の場合、貧困になるのは、干ばつ等の自然災害による不作が大半であり、近代的な産業構造やその矛盾構造から生じる社会問題の失業等はそのようなものとは根本的に様相が異なる。

すなわち、近代的な貧困問題は、個人の問題というより、総じて言えば、社会、産業、経済構造の矛盾構造により生じた問題であり、貧困者は、その矛盾構造を受けて抑圧された人々であると定義できる。もちろん、個々の問題として、同じ劣悪な状況であっても貧困にならなかったというような場合もあるが、これはあくまで本人の努力が評価されるべきもので、それをすべての人に求めて適用することはできない。

（中略）

さらに、働いても貧困から抜け出せない、といういわゆる②「ワーキングプア」の問題は、これらの生活保護問題と密接に絡んできて複雑な様相を呈している。汗水を流して懸命に働きながらも、それでも生活保護受給者以下の所得（生活水準）を得ることができないような生活を強いられている悲惨な実態が盛んにメディアを通じて報道されるようになった。その結果、ワーキングプアの人たちの不満の解消や、労働者の勤労意欲を保つためにも、働いているワーキングプアの生活水準以上の生活保護基準などはあり得ないという論調が国民のなかでかなり浸透してきている。

しかし、落ち着いて考えてみてほしい。世論による生活保護バッシングと、国家財源の逼迫という問題から生活保護の水準の最低限ラインを引き下げていこうとする政府の主張（本音）とが重なると、それは結果的に国民の生活保障の水準のますますの低下を招いてい

く。そして、憲法第 25 条が定める「健康で文化的な最低限度の生活」レベルがときの政府の解釈によって、恣意的に引き下げられかねないという問題を生み出す可能性がある。

このワーキングプアの生活課題は、生活保護問題との比較論ではなく、社会政策、社会保障、労働政策等の社会全体の枠組みのなかで慎重に議論しなければならない重要なテーマであるのは事実であろう。ワーキングプア的生活水準と生活保護受給者の生活水準の双方が、生活保護の受給額をめぐって「下に引っ張り合っていく」ような論点よりも、ワーキングプアを作り出すような雇用環境、社会環境を断じて許されないような政治と政策自体が必要であり、それを「上へ引き上げる」ような雇用政策の議論に転嫁させ、もっと活発化させた上で、改めて生活保護の最低の受給金額の在り方について議論するべきである。

また、現在これらの生活保護そのものにまわりつくようなスティグマ*などの差別意識を廃して、すべての国民に対して同一の額を給付していくというベーシック・インカムという革新的な社会保障のありかたが、イギリスやユーロ圏を中心に盛んに議論されはじめている。日本でも「個人の生活と社会の関係、労働とは何か」を根源的に問い直す山森亮らによって、その理論と戦略が紹介されているのは注目に値する。

(出典：木原活信『社会福祉と人権』ミネルヴァ書房，2014年，p.60-72より抜粋。ただし，出題の都合上，文章の一部を省略・改変している。)

* スティグマ 特定の事象や属性を持った個人や集団に対する，間違った認識や根拠のない認識を言う。スティグマは，その結果として対象となる人物や集団に対する差別や偏見となり，不利益や不平等，排除等のネガティブな行動の原因として社会的に問題となることが多い。

問 1 下線部①について筆者は，今日の貧困が個人の問題ではなく社会の問題であると主張している。その理由を本文の内容を踏まえ，40字以上 50字以内で説明しなさい。

問 2 筆者は，下線部②の原因がどこにあると論じているか。本文の内容を踏まえ，35字以上 50字以内で説明しなさい。

問 3 ワーキングプアの状況によって生じる，あなたが考える問題を 3つ取り上げ，それらが生じる理由をそれぞれ説明し，その改善策を 640字以上 800字以内で述べなさい。